

2018年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 国際ビジネス学科	教授	竹越 美奈子
最終学歴	学 位	専門分野
東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程	修士 (文学)	中国語学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」をふまえ、真面目な学生を育てる。

(計画)

- (1) 総合演習の運営に、中堅の教員として主体的に関わる。
- (2) 演習の学生が2年生としての自覚をもてるよう導びく。
- (3) 中国語の授業においては、外国文化を理解し、尊重する学生を育てる。

○担当科目 (前期・後期)

(前期) 中国語総合Ⅰ、中国語オーラルコミュニケーションⅠ、中国語ライティング、総合演習Ⅰ、卒業研究準備

(後期) 中国語総合Ⅱ、中国語オーラルコミュニケーションⅡ、中国語オーラルコミュニケーションⅢ、総合演習Ⅱ

○教育方法の実践

総合演習において、新たにテキストを指定して輪読するスタイルを取り入れた。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

演習における輪読は、これまでになかった試みであるが、手ごたえを感じた。演習の運営に関しても、総合演習発表会の企画などを通じて貢献できたと思う。

II 研究活動

○研究課題

漢語方言の総合的研究

○目標・計画

(目標)

自らの研究テーマに沿って主体的に研究する。

(計画)

- (1) 昨年度 (平成29年12月) の香港教育大学での口頭発表をもとにした学術論文を発表する。
- (2) 第23回国際粵語学会 (12月、中国) で口頭発表をする。
- (3) 第68回日本中国語学会全国大会 (11月、神戸市外国語大学) で口頭発表をする。

○2011年4月から2019年3月の研究業績 (特許等を含む)

(著書)

・

(学術論文)

- ・竹越美奈子(2017)「近代粵語遇效攝一等字の変遷」単著、『東邦学誌』第46巻第2号、pp.1-25.
- ・Minako Takekoshi(2017) Cantonese as Learned by Missionaries in the 19th Century: Language Variation in *Easy Lessons in Chinese. Current Research in Chinese Linguistics*. Vol. 97. 1: 273-284. 【査読あり】
- ・竹越美奈子(2015)「早期粵語口語中的語体」単著、2015年3月、『南開語言学刊』(北京:商務印書館) pp.86-95.
- ・竹越美奈子(2013)「早期粵語資料の文体考」単著、2013年3月、『太田斎・古屋昭弘両教授還暦記念中国語学論集』(東京:好文出版) pp.332-341.

(学会発表)

- ・竹越美奈子(2019)「19世紀粵語英語借詞の音韻変化」2019年3月26日、第12回漢語方言研究会(近畿大学東京センター)
- ・竹越美奈子(2018)「近代粵語遇攝の二重母音化と早期粵語資料」2018年8月27日、第11回漢語方言研究会(近畿大学東京センター)
- ・竹越美奈子(2018)「19世紀粵語高母音の二重母音化と香港の地図」2018年3月18日、第10回漢語方言研究会(神戸山手大学)
- ・Minako TAKEKOSHI(2017)「早期粵語遇攝一等字的裂化」2017年12月8日、第22回国際粵方言研討会(香港教育大学)【匿名審査あり】
- ・竹越美奈子(2016)「粵語複元音化的歴史和早期粵語文献」2016年12月24日、中古近代漢語ワークショップ(中国浙江大学)
- ・竹越美奈子(2016)「Diphthongization as part of a systematic sound shift in Cantonese: With special reference to early Cantonese materials in the 19th century」2016年12月13日、第21回国際粵方言学会(マカオ理工学院)【匿名審査あり】
- ・竹越美奈子(2016)「近代粵語高母音の二重母音化——早期粵語資料編者の観察から」、第5回漢語方言研究会 2016年8月30日
- ・竹越美奈子(2015)「十九世紀広東知識分子的語言生活」2015年12月12日、第20回国際粵方言研討会(香港科技大学)【匿名審査あり】
- ・TAKEKOSHI, Minako(2015)「Final Interrogative Particles NE and A in Cantonese Primer: A Study of Early Cantonese Grammar」2015年9月25日、第9回ヨーロッパ漢語語言学学会(ドイツ:シュツットガルト大学)【匿名審査あり】
- ・竹越美奈子(2014)「十九世紀広東人的語言生活」2014年12月24日、南開大学(中国天津)。【招待あり】
- ・竹越美奈子(2013)「早期粵語語料中的双層語言現象(早期粵語資料に見られるダイグロシア現象)」2013年6月8日、第21回国際中国語言学学会年次総会(台湾:台湾師範大学)、【匿名審査あり】
- ・竹越美奈子(2013)「十九世紀広東知識人の話しことば」2013年10月27日、第63回日本中国語学会全国大会ポスターセッション(東京:東京外国語大学)、【匿名審査あり】
- ・竹越美奈子(2011)「論二十世紀前半葉日本粵語資料中的粵語語法」2011年12月14日、早期粵語語法に関するワークショップ(香港:香港科技大学)、【招待あり】

(その他)

[研究ノート]

- ・竹越美奈子(2014)「二十世紀粵語研究(1)『香港粵語語法的研究』」単著、2014年10月、『KOTONOHA』

143:1-2.

- ・竹越美奈子(2014)「十九世紀の広東語(10)上昇変音 3」単著、2014年9月、『KOTONOHA』142:39-41.
- ・竹越美奈子(2014)「十九世紀の広東語(9)上昇変音 2」単著、2014年8月、『KOTONOHA』141:1-3.
- ・竹越美奈子(2014)「十九世紀の広東語(8)上昇変音」単著、2014年7月、『KOTONOHA』140:1-3.
- ・竹越美奈子(2014)「十九世紀の広東語(7)文末助詞“呢”の発音」単著、2014年5月、『KOTONOHA』138:1-4.
- ・竹越美奈子(2012)「十九世紀の広東語(6)選択疑問文のマーカ―」単著、2012年11月、『KOTONOHA』120:11-13.
- ・竹越美奈子(2012)「十九世紀の広東語(5)“在”」単著、2012年9月、『KOTONOHA』118:5-6.
- ・竹越美奈子(2012)「十九世紀の広東語(4)Yes-No 疑問文」単著、2014年8月、『KOTONOHA』117:12-15.
- ・竹越美奈子(2012)「十九世紀の広東語(3)続“個”」単著、2012年7月、『KOTONOHA』116:1-2.
- ・竹越美奈子(2012)「十九世紀の広東語(2)“個”」単著、2012年6月、『KOTONOHA』115:4-8.
- ・竹越美奈子(2012)「十九世紀の広東語(1)“的”」単著、2012年5月、『KOTONOHA』114:2-6.

[翻訳]

- ・竹越美奈子(2018)「Cantonese Primer(15)」単著、2018年7月『開篇』Vol. 36. 237-244.
- ・竹越美奈子(2015)「Cantonese Primer(13)」単著、2015年12月『開篇』Vol. 34. 303-308.
- ・竹越美奈子(2014)「Cantonese Primer(12)」単著、2014年12月『開篇』Vol. 33. 388-394.
- ・竹越美奈子(2013)「Cantonese Primer(11)」単著、2013年10月『開篇』Vol. 32. 316-323.
- ・竹越美奈子(2012)「Cantonese Primer(10)」単著、2012年9月『開篇』Vol. 31. 187-192.
- ・竹越美奈子(2011)「Cantonese Primer(9)」単著、2011年9月『開篇』Vol. 30. 337-340.

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況(学内外)

- ・平成23-25年度 科学研究費補助金(基盤研究C)「日本資料を視野に入れた二十世紀香港粵語の総合的研究」申請(研究代表者)―採択(課題番号23520531、研究期間2011年5月~2014年3月)
- ・平成20-22年度 科学研究費補助金基盤研究(C)「西洋人資料と日本刊行資料による粵語語法の研究」申請(研究代表者)―採択(課題番号20520398、研究期間2008年4月~2010年3月)

○所属学会

日本中国語学会、日本言語学会、IACL(International Association of Chinese Linguistics、国際中国語学会)

○自己評価

- (1) 計画通り、学術論文1本を発表した。
- (2) 口頭発表に関しては、予定通り2回発表し、この発表を学術論文につなげることができた。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

与えられた職責(委員会業務など)を責任をもって遂行するとともに、自分に何ができるかを考え、積極的に大学の運営に貢献する。

(計画)

- (1) 教務委員会委員長として大学の運営に貢献する。

(2) 国際ビジネス学科の運営に積極的に関わる。

○学内委員等

教務委員会委員長

○自己評価

- (1) 教務委員長 1 年目で、慣れないことが多く、改善すべき点は多い。
- (2) 国際ビジネス学科は、3 期生を迎えて、混乱が多かった。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

自分の専門分野で、大学授業以外の場でも教育活動を行う。

(計画)

愛知東邦大学コミュニティカレッジ (ATUCC) で英文多読講座を開講する。(7 月 28 日)

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

英文多読講座 1 回 (2018 年 10 月 27 日) 実施

○自己評価

愛知東邦大学コミュニティカレッジ (ATUCC) 英文多読講座では、熱心な受講生と有意義な時間を過ごすことができた。

V その他の特記事項 (学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

なし

VI 総括

- (1) 教育活動に関して、総合演習で試みた輪読は、よい取り組みであり、今後も取り組みたい。
- (2) 研究活動に関して、論文発表・口頭発表ともに予定通りできた。自分のテーマが絞られてきたので、自分のペースで研究を進めることができた。
- (3) 大学運営に関して、教務委員長として、初めての経験だったのでわからないことが多かった。次年度に向けて改善すべき点が多いと思う。

以 上